平成２２年度　学校評価書

【評価基準】３：よくできている、２：おおよそできている、１：あまりできていない　　**大津市立仰木の里東小学校**

大項目	小項目	自己評価平均	現況	関係者評価平均	意見・提言等
教育目標	①児童・学校・地域の実態に即したものになっているか。	2.2	・４つの実践は今後とも重視すべきだと思うが、それぞれの実践課題の中に重点化を図る必要があると思う。 ・学校教育目標を「み・や・げ」で表すことは児童・保護者にも理解されやすい表現だと思われる。	2.6	・以前に比べてあいさつが大きな声で言える子どもが増えてきているように思います。引き続き、気持ちのよい対応ができるよう指導してください。
	②教育実践につながり日常意識しやすいものになっているか。	2.2		2.8	
教科指導	③基礎・基本の定着のために、繰り返しての指導や少人数指導等の工夫がなされているか。	2.1	・「我が校の学力向上策」の見直し、改善、充実を全教職員共通理解のもと、図っていく必要がある。 ・少人数指導の方法について、さらに検討を重ねる必要がある。（全学年での少人数指導の実現など）	2.6	・校長先生を始め多くの先生方が、日々の細やかな授業の工夫や子どもへの対応を心がけてくださっているといつも感じています。
	④発展的な学習指導が計画されているか。	1.9		2.5	
道徳教育	⑤ボランティア活動や様々な体験活動を生かす創意工夫ある指導計画が立てられ、実施されているか。	1.6	・道徳の時間の指導に関して、どうしても工夫の範囲が映像利用や資料提示によるものとなりがちである。特に、地域との連携による体験的な活動を積極的に進めていくことによって、道徳的実践力を育てていかなければならない。	2.0	・保護者は子どもや仲の良い親からの偏った情報を得がちなので、学校の教育的観点からの情報も必要かと思います。例えば道徳の時間に使用したプリントなどを学期ごとに持ち帰らせ親のコメントをもらうようにする等の工夫があればと思います。
	⑥地域や児童の実態を踏まえた重点化がなされているか。	1.8		2.4	
特別活動	⑦学校行事については、児童にとって魅力あるものとし、その意義を踏まえた指導内容になっているか。	2.2	・校内研究とも連携した実践を進められた。 ・児童会運営委員会にあたる「大黒柱委員会」を中心にした児童会活動が充実してきている。	3.0	・学校行事だけでなく、日常の教育活動について、約９３%の児童が、家庭で「学校が楽しい」と言っているのは、立派です。
総合的な学習	⑧外部教育資源の活用や異校種との連携や交流が意識されたものになっているか。	2.2	・本年度も新しい取り組みを入れながら、再構成を図っていくことができた。次年度以降はさらに学年の独自性も入れながら、継続実践の年にしなければならない。	2.7	・地域に出かけていったり、地域の人との連携が必要な学習だと聞きます。地域の催し物にも、積極的に参加してもらえるよう保護者の方への周知をいただけるとありがたいです。
生徒指導	⑨様々な問題行動防止のための早期指導や日常的な予防指導に全校体制で取り組めているか。	2.3	・学級担任から学年、学年から学校組織としての対応という組織的な動きがうまくつながるケースが増えてきている。これからも、生徒指導の「さ・し・す・せ・そ」を心がけ、児童の自己指導力の向上を図っていく。	2.7	・新しい地域で親にとっても色々な絆を作る場に学校がなっているように思います。これからも地域の者にとっても、行きやすい・しゃべりやすい・相談しやすい学校であってほしいと思います。日頃の何気ない交流が大切だと思います。
	⑩生徒指導上の問題に関して家庭・地域・関係機関との連携や相互理解が図られるようになっているか。	2.3		2.6	
人権教育	⑪人権教育を積極的に授業の中に位置づけているか。	2.2	・「いじめ」に対しては、絶対許さないという強い態度で指導を徹底していくとともに、みんな一人一人が守られるべき存在であることを全教育活動を通じて指導していく必要があると考えている。 ・人権教育の視点を入れた学習活動の充実をさらに図るため、新教育課程が始まる機会に今一度見直す必要がある。	2.2	・イジメは通学時から起因している事が多いようです。これは先生と保護者で一致協力して対応すべき問題で、解決すれば100点満点と理解します。問題を全員で共有した上で、地道な取り組みを進めてほしいと思います。
	⑫校内の人権教育に関する研修を授業の中に生かせているか。	1.9		2.2	
	⑬広い視野から人権教育を意識するよう努めているか。	2.2		2.5	
特別支援教育	⑭広い視野から特別支援教育を意識するよう努めているか。	2.2	・個別指導計画の作成をはじめ、一人ひとりへの個別支援の取り組みをきちんとつないでいく取り組みの強化が必要。	2.5	・特別支援教育も環境教育も国際教育も、今、教育で取り組まれるべき今日的課題であると認識しています。学校で取り組んでいただく内容が幅広くなっていますが、是非、充実した取り組みをこれからも続けてください。
環境教育	⑮広い視野から環境教育を意識するよう努めているか。	2.0	・特定の学年の環境学習や児童会を中心にした環境保護の活動等は評価できるが、教育活動全般での取り組み強化が必要。	2.5	
国際教育	⑯広い視野から国際教育を意識するよう努めているか。	1.9	・外国籍の子も多く地域の国際的な意識も高い。外国語活動開始に合わせこの分野にもっと力を入れる必要あり。	2.1	
危機管理	⑰安全点検は、施設設備で「死角」や「危険箇所」を見つけるという意識をもって臨めているか。	2.1	・門で迎える時点から、門まで送り出す時までの安全は、我々が負う所。児童用昇降口のドアの開閉・ストップ１０運動など、もっともっと考えるべき所は多いと思う。 ・地震があった時に、親に引き継ぐ訓練が必要。	2.9	・スクールガード活動や安全パトロールの活動を通じて、地域での見守りを支えられていると思います。
	⑱平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導の充実、徹底が図られているか。	2.1		2.9	
開かれた学校	⑲学校教育が理解されるための啓発を積極的に行っているか。	2.2	・開校１５年が経過した現在、学校と地域の連携のあり方について、再考が必要ではないだろうか？（特に地域の伝統的な文化が少なく取り入れにくい側面がある）	2.7	・学校の様子がよくわからないと思っている保護者が少し多いのが気になります。 ・高学年になる程宿題が多いという意見が見受けられるが、保護者との対話を通じて理解を得る必要があると思われます。
	⑳保護者や地域の関係機関と連携をとり、理解・協力が得られるよう努めているか。	2.2		2.6	